

第 3 発表：福島の現状について (10:50~11:10)

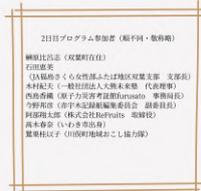
記録誌に残した 「ふるさとへの思い」

赤宇木記録誌編集委員会
副委員長 今野 邦彦

第27回福島ダイアログ
ふるさとへの思い
私たちはどこから来て、どこへゆくのか
—福島の声—

2025 12.7 (日)

10:00-16:30
@CREVAおおくま
会議室1A・1B
福島県双葉郡
大熊町大字下野上字大野116-5
入場無料



12/6開催 |
トレイルで“今の福島”を感じよう。
富岡駅～夜ノ森駅を歩き、放射線
量を測りつつ地域の様子を体感・
共有します。

プログラム詳細は <https://fukushima-dialogue.jp/archives/3094>

当日はZoomウェビナーで同時配信します。
登録は右のQRコードからどうぞ



親子の被害が重なる、人と土壌のつながり。
自然と生きる暮らし・仕事への長年による影響。
避難と復興で変わるコミュニティと景色。
これからの新しいつながりを、一緒に語り合おう

主催：NPO法人福島ダイアログ

このイベントは「福島県双葉郡双葉町」の「2024年度福島ダイアログ」の一環として開催されています。お問い合わせは、0294-22-1111まで。

1

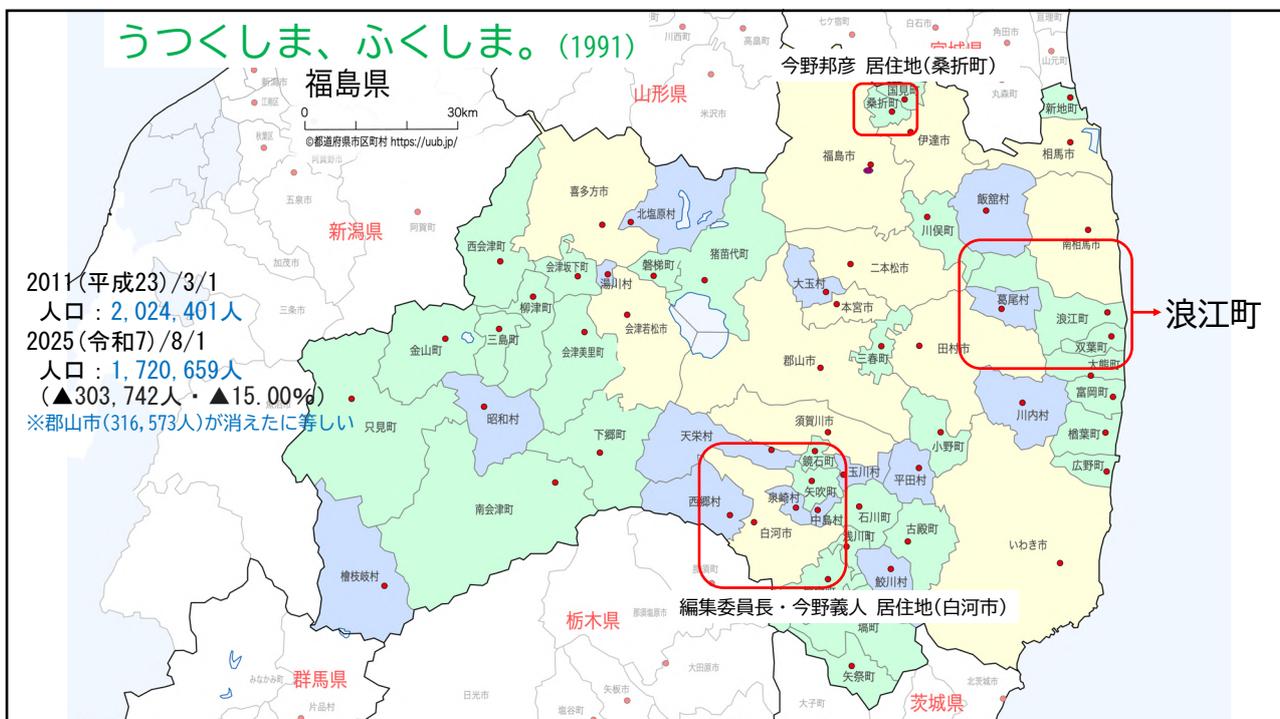
経 歴

- 1958(昭和33)年11月 浪江町大字赤宇木(あこうぎ)字中平に生まれる
- 1995(平成 7)年 4月 赤宇木大字会(自治会)の役員に就任
- 2011(平成23)年 3月 福島第一原発事故により赤宇木を含む津島地区が
人の住めない土地となる
- 2014(平成26)年10月 両親が避難していた福島県伊達(だて)郡桑折(こおり)町に
住宅を新築し、家族の同居を再開する
- 2016(平成28)年 5月 父が他界 2018(平成30)年2月 母が他界
- 2022(令和 4)年
10月29日 自宅解体立会い(実施されず)
10月・11月?日 自宅解体実施(連絡無し)
- 2024(令和 6)年 3月 浪江町赤宇木の記録『百年後の子孫(こども)たちへ』を副編
集委員長として完成させる
- 〃 赤宇木大字会の役員(副会長)を退任(29年間)

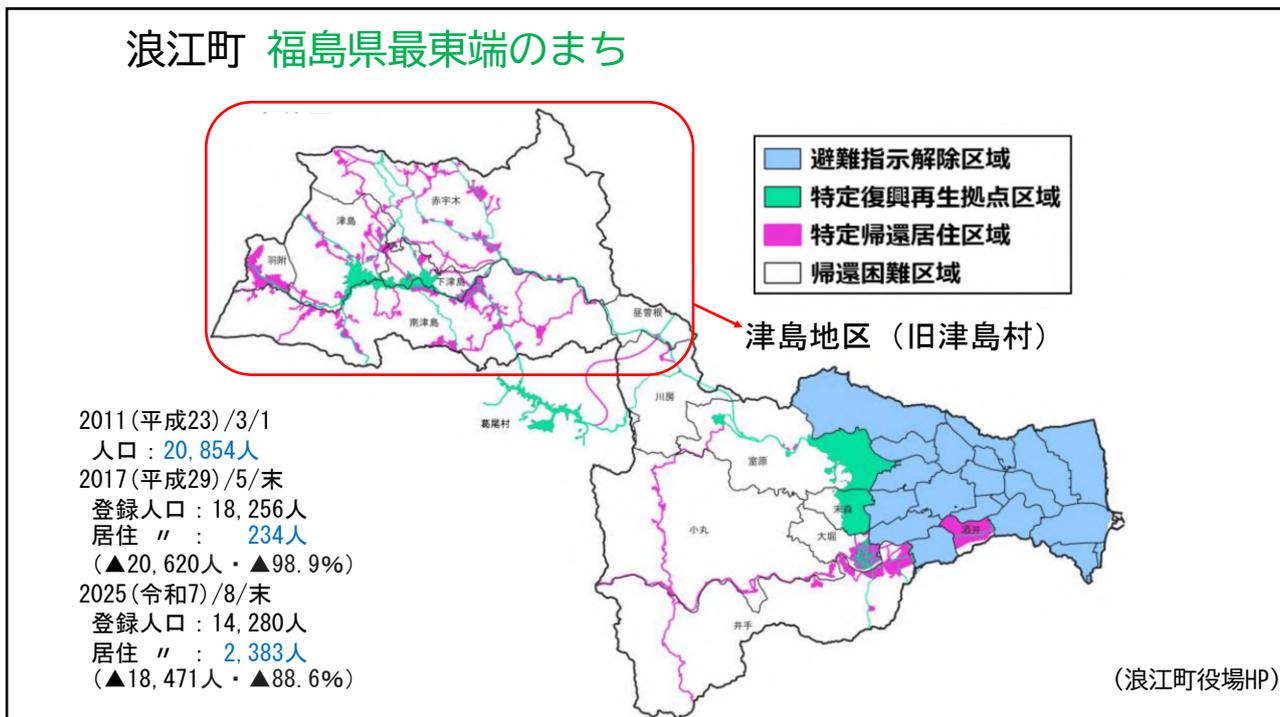
2



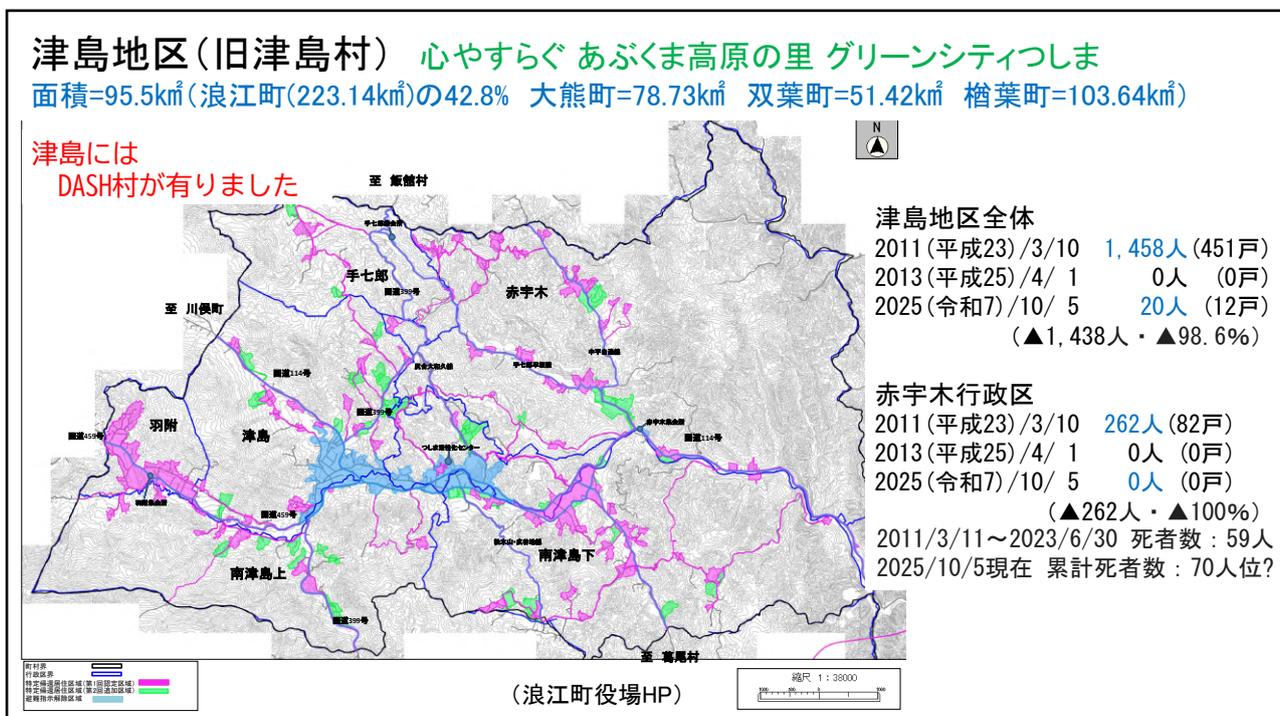
3



4



5



6

津島の歴史

1181(養和元)	嶋一族(末裔は、三瓶・佐藤・高橋・氏家等)が入植し 嶋の里 と呼ばれる(既に先住民はいた模様)
1323(元亨3)以降	相馬氏家臣今(紺)野氏が進出し、 津嶋(島)村 と改める(嶋一族と共存共生)
1549(天文18)	津嶋村の川南(南津島)が三春(田村)領となる
1639(寛永16)	行方郡中ノ郷所属となる
1656(明暦2)	標葉郡に組み替えられる
1697(元禄10)	赤宇木村の誕生 (津嶋村から新たに5ヶ村分村成立(赤宇木・昼曾根・羽付(附)・芹沢・水境/計6村))
1783~7(天明3~7)	津嶋村から分村して下津嶋村が成立(計7村・津島地区の戸数=152戸)
1786(天明6)	天明の大飢饉(1786(天明6)年の津島地区の戸数=51戸:1697(元禄10)年の1/3)
1879(明治12)	旧田村郡津嶋村(南津島)が南津嶋村と改称される
1880(明治13)	芹沢・水境村が津嶋村に吸収合併される
1889(明治22)	新制津嶋村の成立 (赤宇木村は津嶋村大字赤宇木となる)
1956(昭和31)	津島5カ村(津島・赤宇木・昼曾根・羽付(附)・下津島)と南津嶋村、行方郡川房村の一部が合併
2011(平成23)	浪江町と合併 (津嶋村大字赤宇木は浪江町大字赤宇木となる)
	東日本大震災・福島第一原発事故発生(3/10現在の津島地区の戸数・人口=529戸・1,458人)
	3/11 19:03 福島第一原発「 原子力緊急事態宣言 」発令(継続中) 3/15 避難指示発令(浪江町)
	4/22 計画的避難区域となる
2013(平成25)	4/1 帰還困難区域となる(津島地区の戸数・人口=0戸・0人)
2017(平成29)	12/22 「浪江町 特定復興再生拠点区域 復興再生計画(661ha/津島は153ha)」を国が認定(20mSv/年の強制)
2023(令和5)	3/31 特定復興再生拠点区域の避難指示を解除(10:00)
2024(令和6)	1/16 「浪江町 特定帰還居住区域 復興再生計画(一次)」を国が認定(20mSv/年の強制)
2025(令和7)	3/18 「浪江町 特定帰還居住区域 復興再生計画(二次)」を国が認定(")
	6/20 閣議決定「 帰還困難区域での活動を全面自由化・被曝線量は自己管理 」
	⇒除染はしない・活動は自由・被曝は自己責任
	7/15 立入規制緩和区域を設定 (津島は2カ所/浪江町全体で6カ所)
	(本日)12/7 津島地区の戸数・人口=12戸・20人 特定帰還居住区域の除染工事中(避難指示解除予定:未定)

7

福島県における東日本大震災(1/2)

福島県 ≠ 原発事故

福島県 = 地震 + 津波 + 原発事故 = 自然災害 + 人災

〈人的〉	死者数計	直接死	関連死	死亡届	自殺者(人)
福島県	4,180	1,605	2,349(61.7%)	226	119(47.2%)
浪江町	627	151	445	31	

関連死者計3,809人:福島2,349人、宮城932人、岩手472、茨城県42人、他14人(～25.8.1 福島県・復興庁)
自殺者計252人:福島119人、宮城64人、岩手59人、被災地外7都府県10人(～24年 毎日新聞2025.3.29)

〈住家〉	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水(棟)
福島県	15,505	84,972	139,905	1,061	351
浪江町	772	2,384	154		2

〈平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報(第1801報)
令和7(2025)年9月8日(月)8時00分現在 福島県災害対策本部

8

福島県における東日本大震災（2/2）

内陸でも

2011.3.11 藤沼ダム決壊(須賀川市):陸の津波

死者7人、行方不明者1人、流失・全壊19棟、床上床下浸水55棟、
田畑の土壌も多くが流失

2011.3.11 葉ノ木平地区土砂崩れ(白河市)

死者13人、埋没家屋10棟

2011.4.11 田人町土砂崩れ(いわき市)福島県浜通り地震

死者4人、埋没家屋3棟

9

自殺の状況

赤宇木でも

2011.6 縊死 男性(26)
茨城県東海村の山林にて

2011.11 割腹 男性(58)
赤宇木の自宅にて

2011.6.10 縊死 男性(54) 酪農家 相馬市



馬鹿につける薬なし
原発で 手足ちぎられ 酪農家
6/7 AM 9:30

やる気力 なくした
6/10 PM 1:00

原発さえなければ
姉ちゃんには大変お世話になりました
長い間お世話になりました
私の限度をこしました
2011 6/10 PM 1:30

ごめんなさい
大工さんに保険金で支払ってください
原発さえなければと思います
残った酪農家は原発にまけないで頑張ってください
先立つ不幸を
仕事をする気力をなくしました
ケサコさんにはことばで言えないくらいにお世話になりました
妻 長男 次男 →※実名あり
ごめんなさい 何もできない父親でした
仏様の両親にも もうしわけございません。

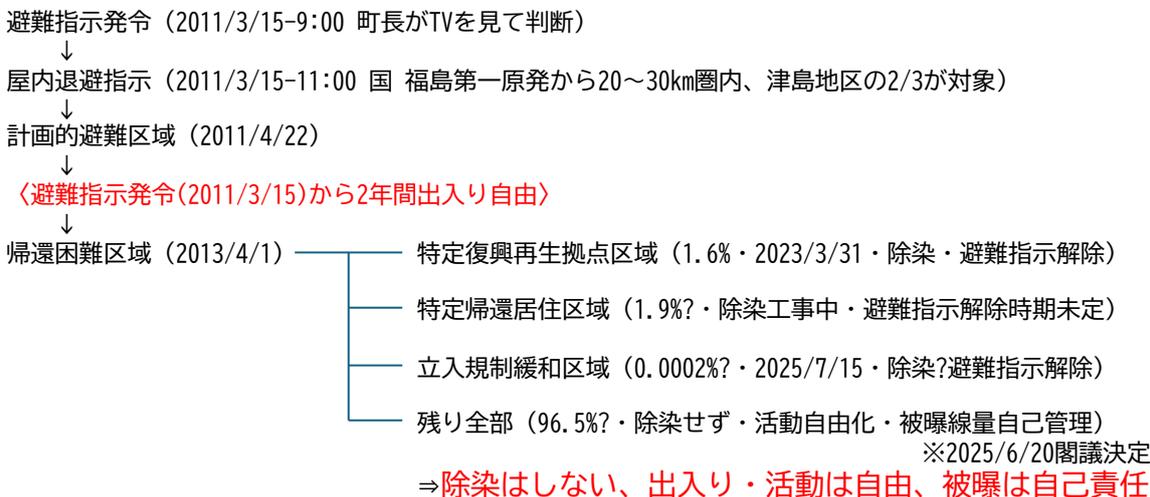
参考: 豊田直巳著 『フクシマ元年』
(毎日新聞社 2012.03.30) 第4章 酪農家の死

お墓にひなんします 2011.6.22 縊死 女性(93) 南相馬市

このたび3月11日のじしんとなみでたいへんなのに 原発事故でちかくの人達がひなんめいれいで 3月18日家のかぞくも群馬の方につれてゆかれました 私は相馬市の娘○○(名前)いるので3月17日にひなんさせられました たいちょうくずし入院させられてけんこうになり2ヶ月位せわになり 5月3日家に帰った ひとりで一ヶ月位いた 毎日テレビで原発のニュースみてるといつよくなるかわからないやうだ またひなんするやうになったら老人はあしでまといになるから 家の家ぞくは6月6日に帰ってきましたので私も安心しました 毎日原発のことばかりでいきたこちしません こうするよりしかたありません さようなら 私はお墓にひなんします ごめんなさい

10

津島の現状



11

(厚生労働省HPより)

(参考資料1)

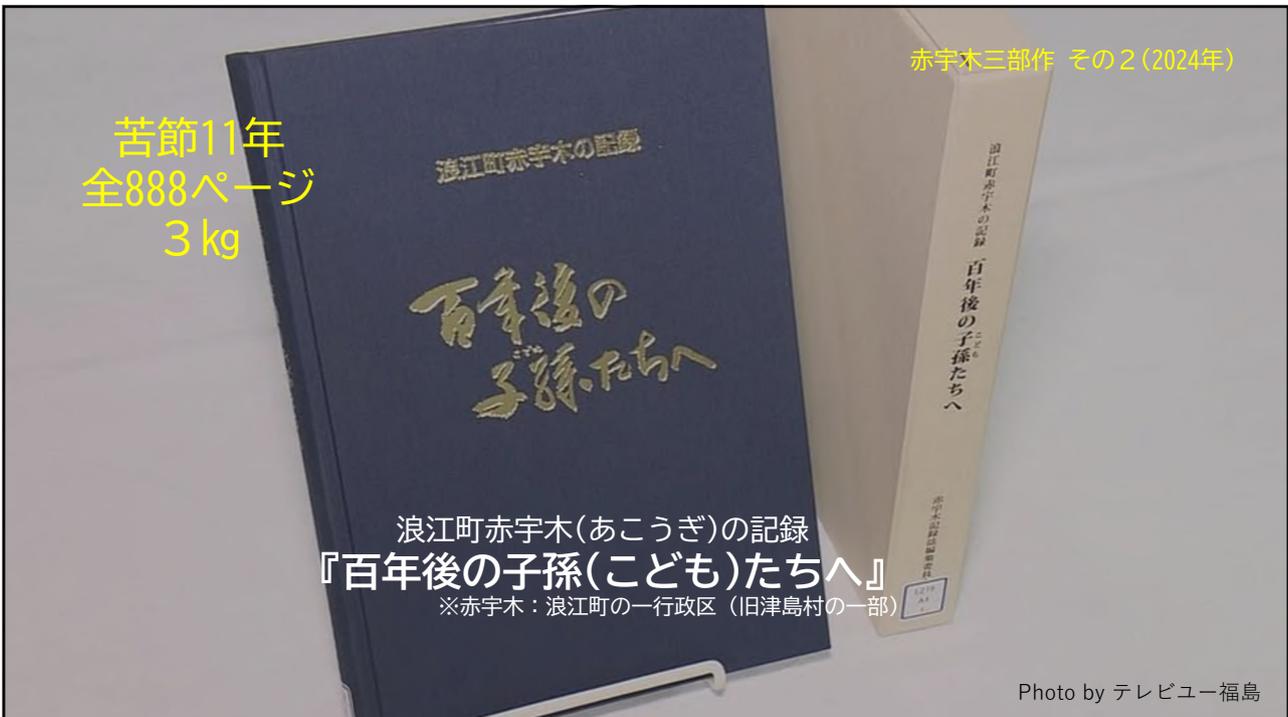
原子力災害対策特別措置法に基づく食品に関する出荷制限等:令和7年10月14日現在

福島県		出荷制限	摂取制限
野菜類	原乳	1市4町2村 ^{※1}	—
	非結球性葉菜類 (ホウレンソウ、コマナ等)	1市4町2村 ^{※2}	1市4町2村 ^{※2}
	結球性葉菜類 (キャベツ等)		
	アブラナ科の花蕾類 (ブロッコリー、カリフラワー等)		
	カブ	—	—
	原木シイタケ(露地栽培)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、南相馬市、田村市(福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の区域に限る。)、川俣町、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、飯館村、葛尾村、川内村(東京電力株式会社福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の区域に限る。) 相馬市(県の定める管理計画に基づき管理される原木シイタケ(露地栽培)を除く。)	飯館村
	原木シイタケ(施設栽培)	川俣町 伊達市(県の定める管理計画に基づき管理される原木シイタケ(施設栽培)を除く。)	—
	原木ナメコ(露地栽培)	相馬市、いわき市	—
	キノコ類 (野生のものに限る。)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、郡山市、須賀川市、田村市、白河市、喜多方市、相馬市、南相馬市、いわき市、桑折町、国見町、川俣町、鏡石町、石川町、浅川町、古殿町、三春町、小野町、矢吹町、棚倉町、矢祭町、埴町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、広野町、楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町、大玉村、天栄村、玉川村、平田村、西郷村、泉崎村、中島村、鮫川村、北塩原村、川内村、葛尾村、飯館村(ただし、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ、ナラタケ、ムキタケ及びクリタケを除く。) 会津若松市(ムキタケ、クリタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ及びナラタケを除く。) 西会津町(マイタケ、ナメコ、ムキタケ、クリタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ及びナラタケを除く。) 会津美里町(ナメコ、ムキタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナラタケ及びクリタケを除く。) 只見町(ナラタケ、フナハリタケ、ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、マツタケを除く。) 柳津町(マイタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ、ナラタケ、ムキタケ及びクリタケを除く。) 三島町(マイタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ、ナラタケ、ムキタケ及びクリタケを除く。) 昭和村(ムキタケ、マイタケ、クリタケ、ナメコ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ及びナラタケを除く。) 下郷町(ムキタケ、県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ、ナラタケ及びクリタケを除く。)	南相馬市 いわき市 棚倉町 (県の定める出荷・検査方針 ^{※3} に基づき管理されるマツタケ、ナメコ、ナラタケ、ムキタケ及びクリタケを除く。)
	タケノコ	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、郡山市、須賀川市、田村市、白河市、相馬市、南相馬市、いわき市、桑折町、川俣町、三春町、広野町、楢葉町、新地町、大玉村、天栄村、西郷村、川内村、葛尾村	—
	ワサビ (畑において栽培されたものに限る。)	川俣町(山木屋の区域に限る。) 伊達市(県の定める管理計画に基づき管理されるワサビ(畑において栽培されたものに限る。))を除く。	—
	ウド(野生のものに限る。)	須賀川市、相馬市、広野町、楢葉町、葛尾村	—

12

野菜類		千葉市、佐倉市、君津市、富津市、印西市、山武市(県の定める管理計画に基づき管理される原木シイタケ(露地栽培)を除く。)
肉	原木シイタケ(施設栽培) イノシシの肉	君津市、富津市、山武市(県の定める管理計画に基づき管理される原木シイタケ(施設栽培)を除く。) 勝浦市、大多喜町、茂原市、長柄町及び長南町を除く全域(県の定める出荷・検査方針に基づき管理されるイノシシの肉を除く。)
新潟県		出荷制限
野菜類	コシアブラ(野生のものに限る。)	魚沼市、南魚沼市、湯沢町及び津南町
肉	クマの肉	新潟市、長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、加茂市、見附市、村上市、燕市、妙高市、五泉市、阿賀野市、魚沼市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町、出雲崎町、湯沢町、津南町、刈羽村、関川村 新潟市、十日町市、糸魚川市、上越市、南魚沼市(県の定める出荷・検査方針に基づき管理されるクマの肉を除く。)
山梨県		出荷制限
野菜類	キノコ類(野生のものに限る。)	富士吉田市、富士河口湖町、鳴沢村
長野県		出荷制限
野菜類	キノコ類(野生のものに限る。)	軽井沢町、御代田町 小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、南牧村(マツタケを除く。)
	コシアブラ	長野市、中野市、軽井沢町、御代田町、木島平村、野沢温泉村
肉	シカの肉	軽井沢町 富士見町(県の定める出荷・検査方針に基づき管理されるシカの肉を除く。)
静岡県		出荷制限
野菜類	キノコ類(野生のものに限る。)	富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、小山町
<p>※1 非破壊式放射能測定装置を用いて、スクリーニング検査を行い、スクリーニングレベル以下のもは出荷等が可能。 ※2 旧市町村は平成15年3月31日時点のもの</p> <p>福島第一原発～最も遠い静岡県富士市 = 328 km 柏崎刈羽原発～浪江町役場津島支所 = 192 km // ~東京都庁 = 217 km // ~東京電力本社 = 221 km // ~名古屋市 = 292 km // ~京都市 = 369 km</p>		

13



14



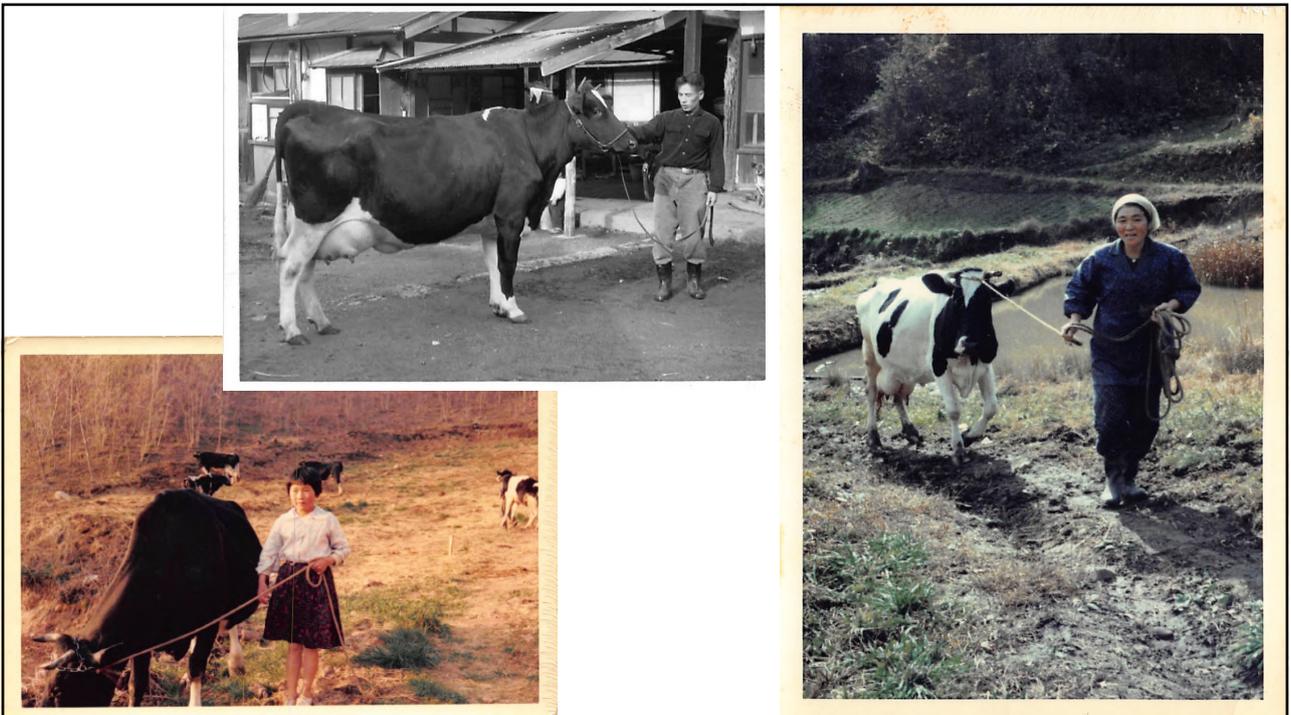
17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



photo by 福島中央テレビ

32



33



34



35



36



37

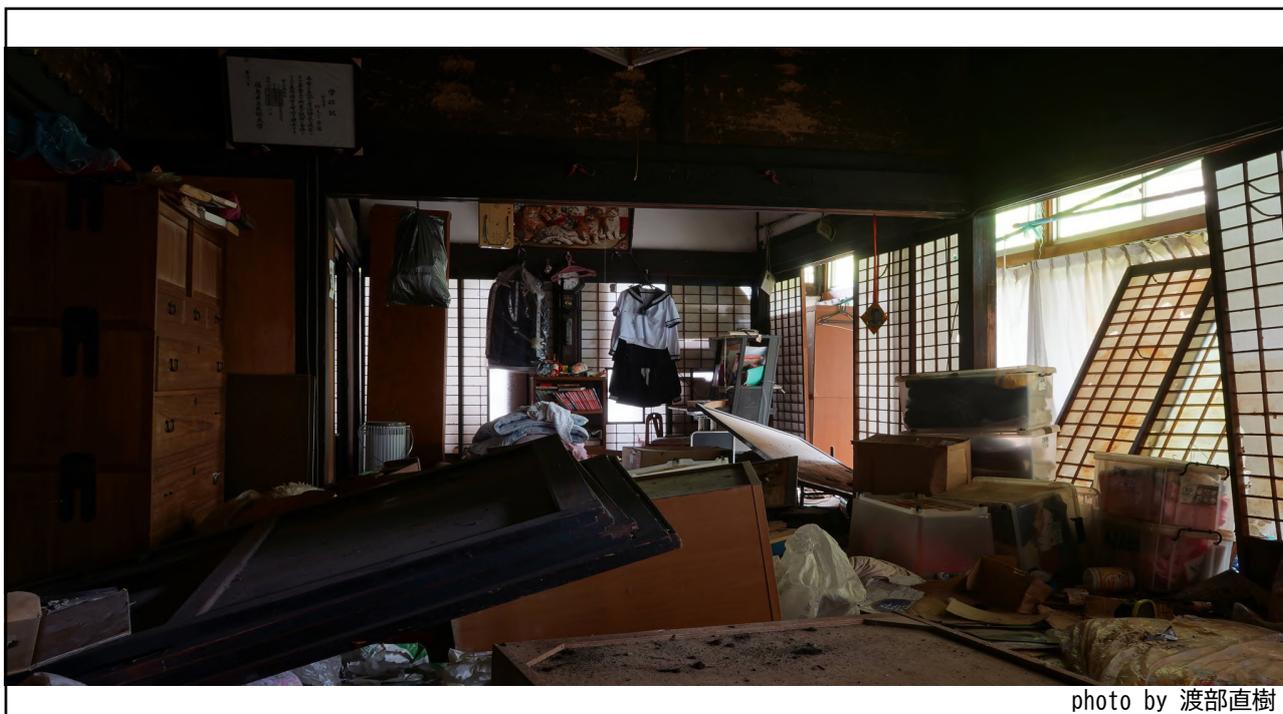
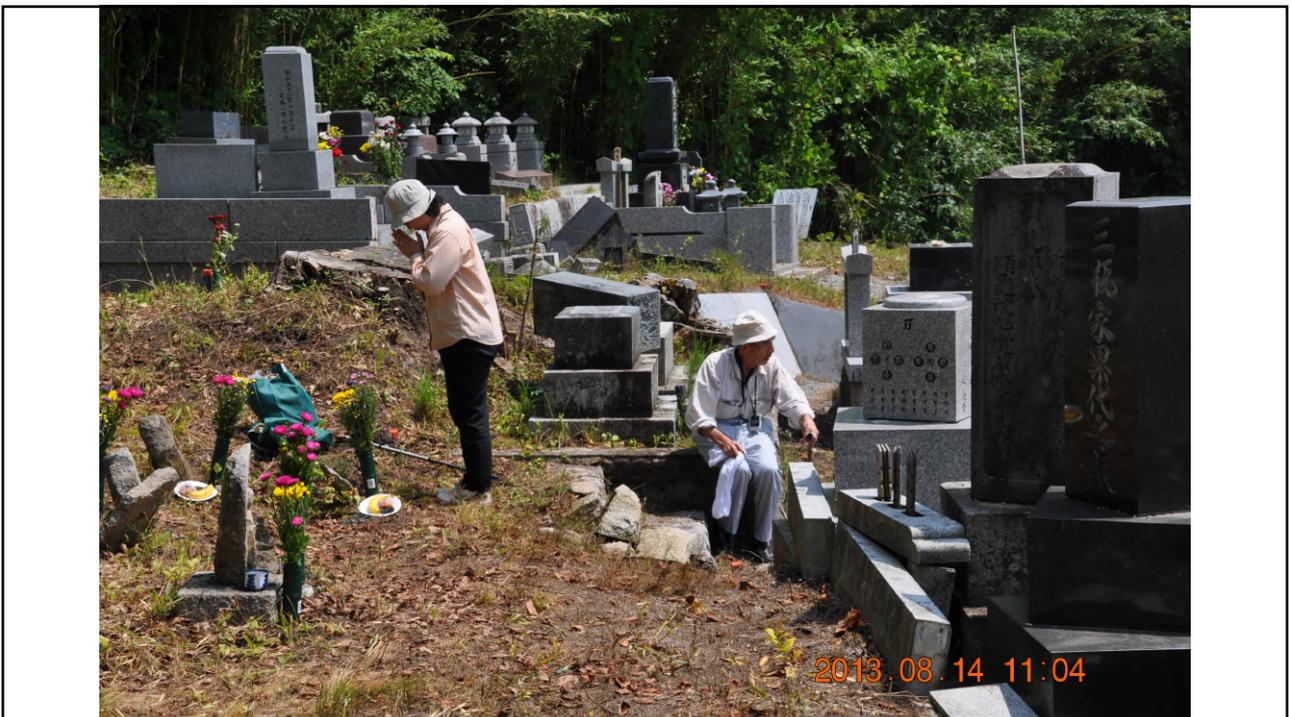


photo by 渡部直樹

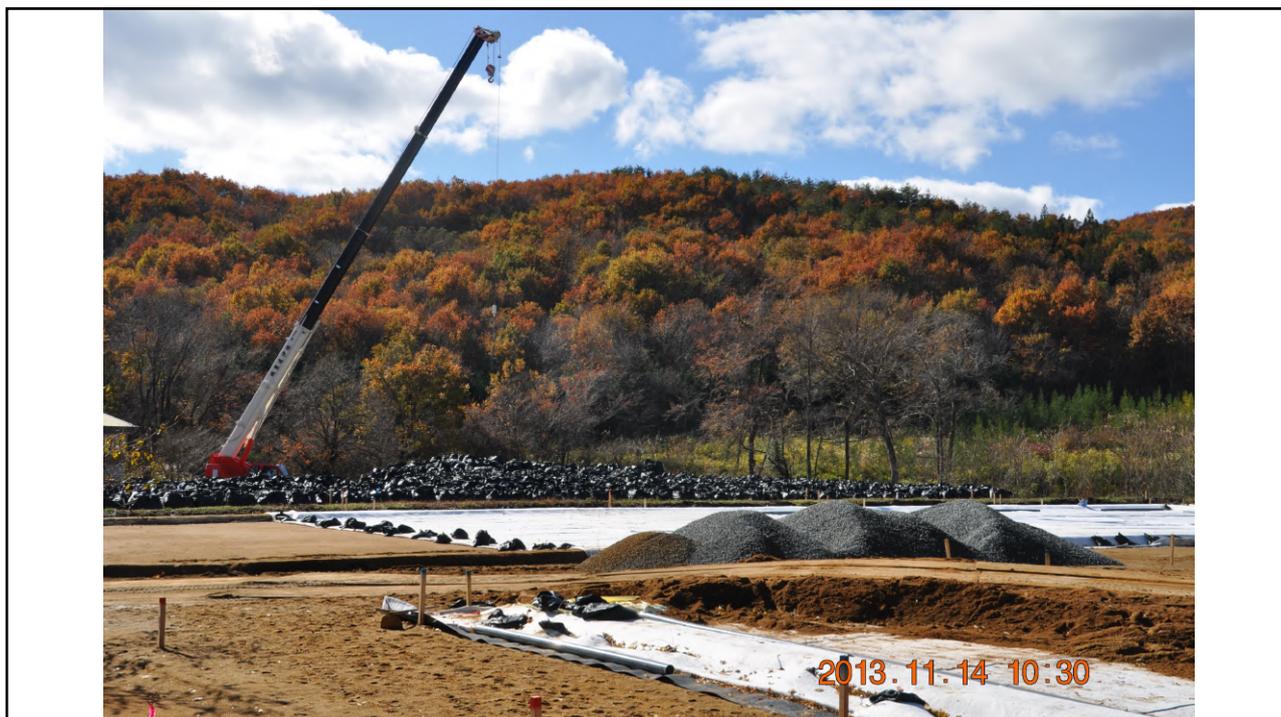
38



39



40



41

『百年後の子孫(こども)たちへ』目次(1/4) (目次だけで 433項目・2段組5ページ)

発刊のことば 赤宇木記録誌編集委員会委員長 今野 義人
 発刊によせて 元浪江町長 故 馬場 有
 発刊によせて 元浪江町教育委員会委員長 畠山 熙一郎

第1部 足あと

- 第1章 村の始まりから現代まで
 - 第1節 地名考「赤宇木(アコウギ)」
 - 第2節 狩猟採集～農耕の時代
 - 第3節 古代・中世・近世
 - 第4節 近代
 - 第5節 現代

第2章 赤宇木村から津島村、そして浪江町へ

- 第1節 いにしへの村々
- 第2節 公共施設と公職
- 第3節 郵便事業
- 第4節 津島の牧

第3章 産業

- 第1節 稲作と養蚕
- 第2節 林業
- 第3節 酪農



42

『百年後の子孫(こども)たちへ』目次(2/4)

- 第4章 信仰 習俗 自然
 第1節 赤宇木の年間行事
 第2節 方言と昔言葉
 第3節 神社とお祭り
 第4節 仏教および寺院
 第5節 講およびその他の信仰
 第6節 津島五山と動植物
- 第5章 団体 組織 役職
 第1節 行政区・大字会・組・部
 第2節 特別職・各種団体
 第3節 組合
 第4節 中山間直接支払制度
 第5節 事業・企業
- 第6章 教育と文化
 第1節 学校
 第2節 わらべ歌・子供たちの遊び
 第3節 『ひみつ基地の森・つしま』
 第4節 スポーツ
 第5節 津島の田植え踊り
 第6節 盆踊り
 第7節 敬老会
 第8節 いきいき夢まつり
 第9節 赤宇木の郷土料理



43

『百年後の子孫(こども)たちへ』目次(3/4)

- 第7章 ふるさと赤宇木
 第1節 赤宇木を追われる
 第2節 泡滝組・櫛平組
 第3節 中組
 第4節 白追1～3組
 第5節 上組・葛久保組
 第6節 小阿久登組・休石組
 第7節 赤宇木の昔の地名
- 第8章 年表および震災後の物故者
 1 年表
 2 震災後の物故者
- 第2部 放射能汚染調査報告
 ・赤宇木地区の下見メモ
 ・赤宇木地区の放射能汚染調査報告(2015年3月)
 ・赤宇木地区の放射線量調査報告(2020年11月)
 ・赤宇木地区全戸の放射線量測定記録
 ・10年間の放射線量測定記録



44

『百年後の子孫(こども)たちへ』目次(4/4)

資料

- ・トロッコ道軌跡
- ・津島開拓40年乃歩み
- ・津島の石仏・石塔
- ・旧三島街道見てある記
- ・郷大屋

協力者

資料/参考・引用文献
編集委員会紹介
百年後の子孫たちへ～あとがきに代えて

赤宇木三部作 その2 (2024年)



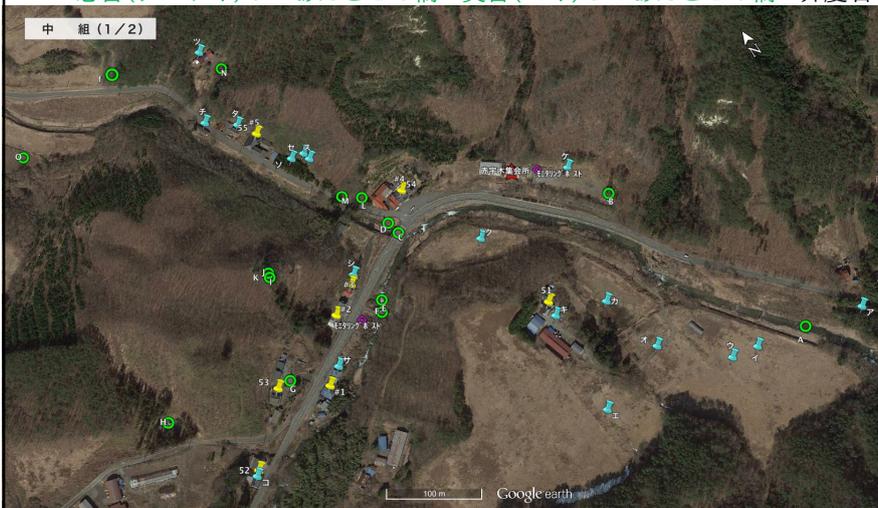
Photo by テレビュー福島

苦節11年
全888ページ
3kg



注目記事① — 地名〈1.7.7他〉

ひきちゃ窪 美し岩 山伏沢 センクボ キチベイ井戸 桶木小屋 (オゲンコヤ) 洗濯淵
塩浸 (シオビテ) でじまる ナガロ のまんまえ マツタケ沢 ダイコン坂 カーブラキ沢 ヨコミチ
ちょうじろう窪 バンカリ坂 うるしま らんばの窪 御所車 方の曲 薔薇
忠吉(チュウキ)つつあんとこの橋 美吉(ミキ)つつあんとこの橋 弁慶石 休石



記号	名称	記号	名称	記号	名称
51	石井 幸雄	ウ	斎藤	青	慈農組合前の橋
52	船野 隆清	シ	赤平木青年会館	白	塩浸
53	石井 隆広	ス	山田	青	塩浸の墓地
54	石井 隆輔	セ	今野 広之	青	山津見神社
55	伊丹 希雄	ソ	伊丹製材所	青	蓮前神社
56	大和田 清	タ	密林書研甲製紙事業所	青	美師船来
57	三風 信久	チ	吉田 光夫 (床屋)	青	塩浸橋新所
58	三風 幸生	チ	桜井 正男	青	木戸
59	今野 五信	チ	米倉・穂田	青	東照権現
60	末永 幸二	ト	樋口 幸太郎	青	桶木小屋(おげんこや)
61	末永 吉孝	ナ	渡部 一恵	青	豊木戸
61	山心らの館	ニ	慈農組合跡	青	小沼
62	慈農組合	ウ	今野 リカ	青	キチベイ井戸
63	消防団屯所	ホ	たばこ屋	青	小沼川渡
64	石井農店	ノ	大竹 七郎	青	小沼の磯
65	伊丹農店	ハ	栗 正光	青	無縁仏
66	東林電子(株)	ヒ	大竹 実孝	青	小沼の東
		ヘ	今野 節	青	小沼の西
		ヘ	松種工場	青	中平の橋
		ホ	新田 耕次	青	小登壇
ア	松根油採取工場	ニ	新田	青	中平
イ	山下 五ノ八	ホ	熊澤(かご)石	青	山の神様
ウ	樋口 早苗	セ	山伏沢	青	
エ	桜井 正成	ソ	小沼林道	青	
オ	根本 恒夫	ソ	中平墓地	青	
カ	今野 一夫	ア	長瀬	青	センクボ
キ	荒井 国男	イ	携帯基地局	青	山の神様
ク	製粉所	ウ	塩浸橋	青	
ケ	津島第二小学校	エ	地蔵碑・庚申塔・他	青	
コ	角倉商店	エ	洗濯淵	青	

凡例
黄色印(数字・数字): 3.11時点で現存していた住宅、企業、団地、施設等
水色印(カタカナ): 3.11より過去に存在していた住宅、企業、団地、施設等
緑色丸印(カタカナ): 公共建造物、墓地、史跡、旧跡、旧跡、旧跡、旧跡、旧跡等

注目記事② — 農産物 <1.3.1.2.2>

ヤマオトコ (なつばぜ) : 自家用・直売所販売

そもそもは周囲の山のどこにでも自生しているものであるが、移植して栽培を始めた農家もある。自家用・販賣用に屋敷の周りに植えていた人もいたが、中山間直接支払制度の参加集落の中では白追集落が加工販売目的で畑に栽培を始めた。

ヨツズミ (ガズズミ・ヨツズミ) : 自家用

そもそもは周囲の山林・原野のどこにでも自生しているものであるが、移植して栽培を始めた農家もある。自家用・販賣用に屋敷の周りに植えていた人もいたが、中山間直接支払制度の参加集落の中では白追集落が畑に加工販売目的で栽培を始めた。

グミ : 自家用

山林・原野に自生しているものと栽培ものがある。栽培ものは屋敷の周りに植えられ、子供たちの「おやつ」になっていた。山で自生しているものにはヤマグミ・チャワソグミ・ツルグミ、霧グミ (アエグミ) があり、栽培ものには、ナツグミ・ビッグリグミ (トウグミ)・ナワシログミがある。

桑の実 (クワゴ) : 自家用

その名の通り桑の木になる実で赤字木の人達はクワゴと呼んでいた。養蚕用の桑の木に生るものと、山林に自生している山桑に生るものがある。桑の木の種類によって、実の大きさ、熟した時の色に違いがあり、そのまま食べても美味しいが、ジュースや焼酎漬けにする人もいた。グミと同じくおやつ定番で、子供たちは口のまわりから服までも紫色に染めて食べていたものである。

【花 卉】

リンドウ : 農協出荷

山にはいろいろの種類のリンドウが自生しているが、販売用としては津島の中で赤字木の人達が先導して栽培を始めた。J) A) の高冷地農業部会の中にリンドウ部会が組織され、栽培に取り組み販売力をつけてきた。

宿根カスミソウ : 農協出荷・直売所販売

農協経営で栽培が始められたが、最近では直売所販売が主となった。

トルコキキョウ (トルコギキョウ) : 自家用

直売所で販売することを目指して、試験栽培を始めたところだった。

ランタニユラス : 自家用

直売所で販売することを目指して、試験栽培を始めたところだった。

フリージア : 自家用

直売所で販売することを目指して、試験栽培を始めたところだった。

雑木林の松の下や、小松林の中に7月頃から9月頃まで自生している。つるつるした食感の茶色のキノコである。

ヒラタケ : 自家用・直売所販売

原木に細菌して栽培し直売所等で販売していた人もいた。自生ヒラタケは広葉樹の倒木や枯れ木に発生する。

シメジ : 自家用・直売所販売

山林に自生しているものにホンシメジ・イッポンシメジ・センボンシメジ (シャカシメジ)・ムラサキシメジ・ハタケシメジ等がある。

サクラシメジ : 自家用・直売所販売

広葉樹林の中に自生。淡紅色・深紅色のシメジがある。煮ると黄色になり多少苦い。

ホテイシメジ : 自家用

白色基部は太く苦みがある。毒のあるクサウラベニタケと間違えられることがある。

マツタケ : 自家用・農協出荷・直売所販売

赤字木の山はアカマツが多いがマツタケの自生しているところが方々に見られた。主に柗平の山が発生の多い場所であった。

ヤマドリモダシ (クリノキモダシ・クリタケ) : 自家用・直売所販売

栗の木の根や、桜の木の根に自生する。

ハツタケ : 自家用・直売所販売

小松の中の萱があるところや雑木林に自生している。夏の終わりに発生する。乳液が青緑色になる。ぼそぼそして口当たりが悪い味がする。

エノハナ (イノハナ・香茸・革茸・シシ茸) : 自家用・直売所販売

松と雑木の混在している林の中。白色で粗大な厚い鱗片に覆われる。地域によって呼び名が変わる。

ウシコ (クロウシコ)

松と雑木の混在している場所にも自生する。苦みがあり、虫が入っていることがある。なめし革のような質感。

ネズミタケ (ホウキタケ) : 自家用・直売所販売

元端が淡紅色で柄は太く白い。先端部をネズミの足指に見立てて「ネズミタケ」と呼んでいる地域もある。

チヂタケ : 自家用

傷つくと白色の乳液状の液体が多量に出る。口当たりはぼそぼそするが香りがよく、旨みのあるだしの出る。

野生のキノコも重要な農産物

47

注目記事③ — 農機具 <1.3.1.3.6>

ヤセウマ

木・縄・布で作られた背負うタイプの運搬具で、荷台があるため重量物を長距離、運搬するのに適していた。瘦せた馬一頭分の働きをするということで付いた名称で、米、麦、柴、薪(まき・たきぎ)、炭、薪草刈りした草等の運搬に使用された。下に出た二本の足が長く、疲れた時は腰を少し屈めれば、その足が地面に着いて荷重を支えるので、背負ったまま休憩することが可能だった。現代でも「背負子(しよいこ)」として基本的な形は変わらずに、重量物や災害時のケガ人を運搬する際に使用されている。
※前項の「背負い子(しよいこ)」とは別物



ヤセウマ

コシコ

前々項「背負い子(しよいこ)」の腰に付けるタイプ。肩紐に替わり腰に固定するための紐が着いていた。粟や木の実等の採集運搬に使用された。通常は口が閉じている構造は、転倒時に中身がこぼれ落ちることを防ぐ効果があった。ウェストバッグ・ウェストポーチ・エプロンバッグのご先祖様といったところか。

翁(ふご)

一般的には魚籠(びく)と呼ばれる物と思われるが、赤字木では翁(ふご)と呼ばれていた。種子を入れて種蒔き時に利用していた。勿論、釣った魚を入れるためにも使われた。



ふご

荷鞍(にぐら)

牛・馬の背に付ける荷物を載せるための鞍。またこの鞍は農具(バコ・マンガ等)や牛馬車を引くために利用されることもあった。



荷鞍



馬によるマンガ作業



牛によるバコ作業

牛馬車

牛や馬に引かせる車。

一輪車(ネコ)

手押し式の運搬台車(手押し車)。ネコ・猫(ねこ)または猫車(ねこぐるま)とも呼ばれる。山道や畑や工事現場などで農作物や資材を運ぶのに利用される。道路交通法上は軽車両に分類されている。引っ張るリヤカーとは使用する向きが逆で、押して使用する。猫(ネコ)という名前の由来は、猫が通るような狭い足場を建築用語では「猫足場」と言い、そこを運ることができると「猫車→猫(ネコ)」と呼ばれるようになったという説が有力である。



ネコ



ネコ

二輪車

バイクのこたではなく、前項の一輪車の二輪タイプで安定感に優れている。二輪でもネコと呼ばれることもある。



二輪車



二輪車

トレーラー

荷物を積んで運搬する。耕転機やダンプ機能付き乗用クローラ型で、耕転機やダンプ機能が付いたものが多い。クローラ型には付いて



トレーラー 耕転機用



ダンプ機能付き乗用クローラ型

軽トラック

あらゆるものを運搬するための農業機械。使用目的により歩行形か乗用型、車輪型かクローラ型の区別がある。ダンプ機能の付いたものが多く使われ、堆肥や土砂を下ろす時に威力を発揮している。



軽トラック



トラック

軽トラック

今や農家の定番ともなり便利に使われている。取り扱いが簡単な軽自動車であることから女性の愛用者も多い。

軽トラはもはや農機具!

48

注目記事④ — 炭焼き <1.3.2.2>

アオで掘いたクド予定部のドハが頭丈であり、更にその後ろが燃えない土であれば、炭窯の焚口の反対側の場所に作る。スコップなどでドハの外側に穴を開け、炭窯の底まで届くように掘り下げ、煙突の形を整える。このクドの作り方は、「突き掘り」と呼ばれる。

突き掘りに掘らずにクドを作る場合は、クド予定部のドハを取り去り、そこに粘土と石を組み合わせて、積み上げて作る。完成したら、その前で火を焚いてクドを乾燥させる。そのクドが乾く間に炭木を切り集める。

炭窯の「あなたも今日から炭焼き名人！」の軽さに切った直径2~3cmの太さの細木」を隙間なく並べる。並べ終えたら、アオの後ろから立て、並べてくる。焚口まで立て終えたら、立てた炭木の隙間を、アオの後ろから立て、並べてくる。焚口まで立て終えたら、立てた炭木の隙間を、アオの後ろから立て、並べてくる。焚口まで立て終えたら、立てた炭木の隙間を、アオの後ろから立て、並べてくる。

形が整ったら、形が崩れないように両側に杭を打つ。それを終えたら、「ハチ（釜の上、頭の部分）」作りになる。太い木を細かく切った「差し木」をその隙間に埋めて形を整える。即ち、ドハより中心部が2尺位の丸みをつけ、整えて仕上げる。その上を藁や藁で覆って土が木の隙間に入らないようにする。次は、いよいよ土を被せる段になる。土の厚さの目安はハチの高いところで3寸、中間で5寸、裾の部分で7寸。手作りのアオでハチの斜面に垂直に掘っていく。5~6人で行うが、何周か回り、固まった時点で掘き終わる。その後は、「ペッタ（持ち手は丸い木で、ハチに当たる部分を平らに加工した道具。両手で使う大きいものと片手用の小さいものがある）」で仕上げていく。最後は土から水分がにじみ出て表面が滑らかになっていく。多く出る窯（一回で30~60検分を焼ける窯）を作るときは、「ツリカン」を準備しておき、ハチが落ちないように工夫する。これは、ハチの内側に鉄製の平たい物を仕込み、そ



ハチ作り 差し木を並べる、ハチ作り 土を盛り、形を作る、ハチ作り アオでハチを囲める、ハチ作り 手前の構木は土留め



口焚き 焚口を乾かす1、口焚き 焚口を乾かす2、ハチを乾かす・ハチ小屋もできた、子ども達も集まってきた

火を入れた炭窯の状態は、煙突から出る煙の色と質で知ることができる。初めは黒と白の混ざった色をしているが次第に白くなり、そして薄く辛く（煙が鼻につんとくる状態）なってくる。更に煙の色は青くなり「止まり窯」の寸前となり、最終的には無色になって「窯止め」の瞬間を迎える。炭窯の前の部分の空気穴から炭窯の中をのぞき黒い部分がなく、真っ赤になっていれば、空気穴をふさぎ、煙突にふたをして窯の中を密封する。これが窯止めである。炭に精練を加えて炭を固くする方法としては、煙突の口の聞き加減で操作できるが、これは熟練しないと難しい。

窯を止めてから3~4日位で「窯出し」をする。出した炭は出し小屋に重ね、次の窯出しまでは「炭スゴ（販売用の炭を入れるために茅で編んだ物。炭俵）」に入れて整理しておく。通常の炭は裾（のこぎり）で半分を切断し、炭スゴに入れて直方体に形を整える。炭スゴの底と蓋の部分は、炭が外にはみ出さないように白炭、萩、小炭を炭の長さに折ってあてがい、縄で抑え1俵4貫目（15kg）にする。肩炭（差し木の炭や形の不揃いな炭）は、円柱形にした炭スゴに入れ1俵4貫目にする。通常品、肩炭とも値段は違ったが両方とも販売できた。

でき上がった炭は、ソリ（木材等を山から運び出す用具）で土場（どば：集積場）まで運び、業者に販売する。

炭窯作りはそれぞれに工夫されており、基本は同じだが経験で微妙な違いが見られるようである。



火入れから2日目頃の燃焼中の窯

49

注目記事⑤ — 方言 <1.4.2>

くんにえ (呉れない)	くんな (来るな)	さんどまめ (きぬさや)	さんくるけ (ひっくり返る)	ざんぞ (噂)
けいちゃ (裏返し)	けえー (喰え・食べろ)	し	しおびき (鮭を塩に漬けたもの・塩鮭)	しがむ (食べ物をよく噛む)
げす (最後・しんがり・尻)	けつ (尻)	しきしあてる (つぎはぎをする)	しがみつら (洗いや顔)	しがんぼ (つらら)
けつべた (尻・臀部)	けつまつく (つまづく)	しがみつら (洗いや顔)	じくねる (心をかたくなにする)	しぐ (死ぬ)
けつとばす (足蹴にする)	けつべずる (削る)	してくち (おこなってください)	しこたま (沢山)	したろ (炬のある入口の部屋)
けちんぼ (欲張り・けちな人)	けつめど (肛門)	したき (唾)	しっぱたく (たたく、たたくを強調する)	しずむ (浴槽に入り体を首まで浸る)
けつめけ (縛まりのない人・戸を締め切らないさま)	けたくそ (いまいましいこと)	しっぱね (歩くとき背中に跳ね上がるさま)	しっぱめる (喉につかえる、「つっぱめる」こと)	
けちくせ (欲張り・けちな人)	けつとう (毛布)	しっぱめる (喉につかえる、「つっぱめる」こと)	しっぱめる (喉につかえる、「つっぱめる」こと)	
けつべずる (削る)	けろっとして (平気な)	しっぱめる (喉につかえる、「つっぱめる」こと)		
けわし (ずる賢い)	けんごめ (総ての家)	しっぱめる (喉につかえる、「つっぱめる」こと)		
けんごめ (全部)	けんこつ (握り拳)			
けんべきはる (肩がこる)				
こえ (雄肥・人糞)	ごいら (急に、突然)			
こおのけ (眉毛)	ごおら (木の中が空洞)			
こきたね (汚い・汚れている様)	こざる (値引く)			
こく (嘘を言う)	こごまる (屈む)			
こころへん (この辺り、漠然とさす)	こさかし (内緒で探す、断り無く探す)			
こしこ (腰に下げる入れ物)	こじる (鶏が卵を産まなくなり卵を指く様)			
こしまきかぶり (女房の言いなりになっている亭主)	こせる (作る)			
こじはん (朝、昼食・昼、夕食の間の食事)				
こせやく (怒る)				
こせやける (腹が立つ)	ごせっぽらやける (腹が立つ)			
こつちやく (此方に来ない)	ごせらんにえ (我慢できない)			
こどく (囲炉裏などに置いて鉄瓶など上げる)				
こば (足のつま先の指の付け根の幅)				
こわい (恐ろしい・疲れた)	ごつお (ご馳走)			
こねる (粉などに水を入れ固める作業)	こねくる (いじり回す)			
このまし (羨ましい)	こんじよよし (お人よし)			
ごんけもち (掘りこぼし)	ごんぼ (炭木の下に敷く為細かく切った敷木)			

方言を方言で解説することも「つっぱめる」こと???

50

注目記事⑥ — 葬儀〈1.4.4.9.1・2〉

地域で送り出す ということ

一緒に持ち去ったり、その場で燃やす例がある。これは野辺送りの儀式を全て撤れと見る風習。

【陸 尺】

出棺時の世話役である4人の陸尺は、白い行衣(浴衣?)を着用し、天冠を額に着け、草鞋を履く。

※お墓へ野辺送りの行列の順に並んで、霊柩輿を四人で担ぐ。霊柩には緑の綱を取り付け、遺親族女子の方々が担まり仮の門を通る。

【野辺送り】

- 1) 進列が初まると鑼子、鏡鼓、銅鑼を鳴らす(出発時、辻ごと、人や動物と会った時、お墓の入口)、チンジャンボン(ザンボン)、ジャジャンボン(ザンボン)と打ち鳴らされる。
- 2) お墓の入口に六地蔵の高札立て、そのロソクに火を灯す。葬列進列。
- 3) お墓の棺台の所で、霊柩を担いだまま、緑の綱の人も行列者全員時計の針が回るが如く、僧侶の読経中三度回る。
※これは死者が死心門から修行門・菩提門・涅槃門等の四つ門の行道、即ち(発心から涅槃まで修行段階)早く寛りを開いて極楽往生されるようにとの読経である。
- 4) 次に棺をお墓の棺台に安置(故人の頭を導師の方に向け、足は向こうへ)。
- 5) 中心に野机・お位牌・遺影・霊前・香炉を、この左右に六合・他供物・生花・灯明他。



※十三仏・塔婆は、遺親族又はお手伝いの方が葬儀当日の最後に(三日七日忌の法要後)、お墓参りして上げる。

【お葬式後】

- 1) 土葬埋葬の日から初七日まで毎日お墓参りをする。
 - 2) その時、お供え・生花・線香・団子をお墓にお上げる。
 - 3) 清らかな水を薬罐(やかん)に入れ、蓋をせずお墓に持って行く。お墓の中心の内節の抜かれた青竹筒から水を注ぎ奉る。
 - 4) その青竹に耳を当てて死者の呼吸反応を聴き分ける。
 - 5) 合掌と成仏の祈りを申し上げる。
 - 6) このお墓参りは遺親族・葬儀組の方々・他で行う。
- ※津島赤宇木地区の土葬は約35年位前まで行われた。それ以降、ご遺体は火葬場で荼毘(お骨)に付され、四十九日忌に納骨されることが多くなった。

【火葬の葬儀】

火葬の場合の野辺送りは、出棺・陸尺・仮の門と葬列役割は土葬の場合と凡そ同じである。霊柩車に遺体を載せる場合、棺の方から入れる(頭部が車の後方になる)。緑の綱は霊柩車に結ばれる。喪主を初め参列者は、予め行列の終わりの場所を決めておいたところまで歩きます。

【火葬の野辺送り】

- 1) 葬列が途中で終わり、火葬場までの野辺送りとなる。
- 2) 火葬場へ行く順序
行列先頭の車
イ) 大導師・職衆・導師案内
ロ) 霊柩(棺)と共に喪主(お位牌)・写真・骨箱
ハ) 陸尺
ニ) 遺族・親族
ホ) 会葬者
※大半行列配役の品を持ったまま火葬場に行き、それらを竈の前に飾る。配役の長い持ち物は車に持ち込まないで、葬列の終わった路傍の交通の邪魔にならないところにまとめて立て置き、後に葬儀手伝いの人がそれを片付ける。

【火葬場の式について】

- 1) お棺を安置し、お位牌・写真(遺影)を飾り、供華物・霊前・団子・野机・その他をお飾りし

注目記事⑦ — 個人の記録〈1.7.4.3〉

国策により満州へ、再度 国策により満州から赤宇木へ、三たび 国策により赤宇木を追われる。いったい国とは・・・

取材先 赤宇木

勤は、二本松の上川崎の地より昭和17年1月満蒙開拓移民団として、満州国北部の黒龍江省(現在)に父母兄弟9人で渡る。下学開拓村と呼ばれた入植地には先遣隊が建てた家があり、中国人が開拓した農地が用意され、大豆やトウモロコシを栽培する。冬は零下40度にもなる厳しい寒さでしたが、五月になると暖かく良い季節になり農作業に助かるといいます。入植した翌年、取組が滞り8月9日にロシア軍が満州に攻め入り、私達は捕虜となりシベリアにおくられる。シベリアでは貨車で詰め込まれ、製粉工場で働かせられたり、集団農場で働いたり、抑留生活は大変なものであった。毒を飲んで自決した人、集団自決を図った人、寒さに震える人、飢えに悩む人、火山の噴火が劣悪な環境の中で命を落としていった。勤運を乗せた船が京都の舞鶴港に戻ったのは1948年の事だった。上川崎に戻り国の政策で国有林を解放される事を知り、開拓入植者として白濁の地に入る。当時は炭窯を作り、炭を焼き、薪を作り、販売し生活費としていた。伐採した跡地を借地として耕し、野菜畑を少しずつ広げていく。

勤 — ナツヨ 2人の子供に恵まれる

礼子(後継者) 久子(浪江)

機械の無い時代だったから、切り株を起こすのも、畑にするのも、水田を作るのもすべて親などを使っての手作業だった。昭和35年頃になると現金収入を得る為に乳牛を導入し酪農を中心とした農業を始めた。少しずつ乳価が安くなり多額化経営じゃないと採算が取れない様になったので水田と野菜の農業経営に切り替えた。

礼子は浪江町の電機メーカーで働く同僚の兄と見合い結婚する

礼子 — 升 2人の子供に恵まれる

昌明(後継者) 友則(東京)

礼子は地元の小高農芸高校津署分校に通学、農芸高校の定時制だったので4年間通った。夏休みと冬休みの他に、農家の忙しい時期の春休みと、秋休みがあり、総ての休みが農業の手伝いだった。高校を卒業すると、農業を手伝いながら電機メーカーで働くようになる。75年に見合い結婚し、二人の子供を授かる。赤宇木に電機メーカーの東野電子が入ってきたので二人で勤めるようになる。農業を営みながらの兼業農家である。東野電子を辞めてから、礼子はヘルパーの資格を取り、勤め



ル野菜畑20アールと規模拡大し、勤めを辞めてからの農業に希望が持った。

升は、若い時、郷土芸能の田植え踊りに参加し早乙女の役をこなし好評を得た、又地元の大ノ姿の会の会長を務め、野球、慰安旅行、若人の集い、と、若い時代の先導者として活躍する。

山林に囲まれた山あいにある農地だが、一望に見渡す事ができ、農地の四季折々の彩りが、汗をかいた後の深い充実感を満たしてくれた。又、周囲の山々は山菜の宝庫であったフキ、蕨、タラの芽、秋になればキノコ、栗の実、一年のサイクルが忙しくいられた自然の移り変わりも家の前で満喫できた。桜から紅葉まで、まさに自然と一体感だった。

リンドウを栽培する様になってからは、夏から秋にかけての彩りが増した紫の花が一段と気品だった。品質の良いリンドウが作ることができ、出荷するのが楽しくて、手をかければ手をかけるほどリンドウは応えてくれた。

3月11日2時46分、東日本大地震が起きた。屋根の瓦が落ちるのが見えた。父母と礼子は「これは危ない」と、外に出た。升は避難の仕事をこなす中で、車が大きく揺れたが大した事がないと思っていた。会社に戻ってみると、社員は皆地震の影響で家に帰った後だった。翌朝ヘルパーの仕事に向かったが、町の人達は避難を始めていたのです。妹の事が心配で妹の家にいったが、避難した後だった。13日妹が津島中学校にいたことが分かり、自宅に避難してもらった。友人を含め総勢10人位の生活を始めたが、15日に町からの避難指示が出て二本松に向かうよう組長の連絡があり、二本松の息子の所に避難する。暫く息子の所にいたが、避難先を岳の安達大良体育館に移した。4月10日に町からの案内で北畑原村の民家に避難先を移す。8月になって二本松の由井の借り上げ住宅に移る。

故郷赤宇木は、放射線量が高く帰れる見通しが立ちません。半減期が30年、それを考えると自分達の時代には帰る事ができない。どこか新しい地を探し移り住むしかないと思う。

農業が好きで勤める事ができない、いつか新しい地を栽培し、自家用の野菜を作り、残ったら直売所へ販売する、それが私達の夢。原簿は一刻も早く廃止してほしい。

※その後、勤さんは平成27年5月に他界した。また、住宅は安達郡大玉村で入手した。ナツヨさんは令和3年3月他界した。



注目記事⑧ — 放射線量記録〈2.4・5〉

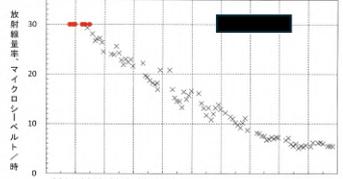
13 宅 浪江町赤宇木地区橋平

家屋標(名前付きピン位置): 北緯 37.56077 度 東経 140.81920 度
 測定点(番号のみピン位置): 北緯 37.56071 度 東経 140.81937 度



2020年11月1日の放射線量測定値
 赤宇木地区測定値: 5.49 μSv/h
 HISORA テーム測定値: 5.64 μSv/h

2011年10月から2020年11月までの放射線量推移(赤宇木地区による測定)



2011年3月のセシウム-137 初期定着率推定値 約800方ベクレル/平方m
 2011年3月16日午前0時の推定放射線量率 約800μSv/h

赤宇木行政区 放射線量記録表

け部: 30超(測定限界超)
 ター数値=----: 非表示(調整中)

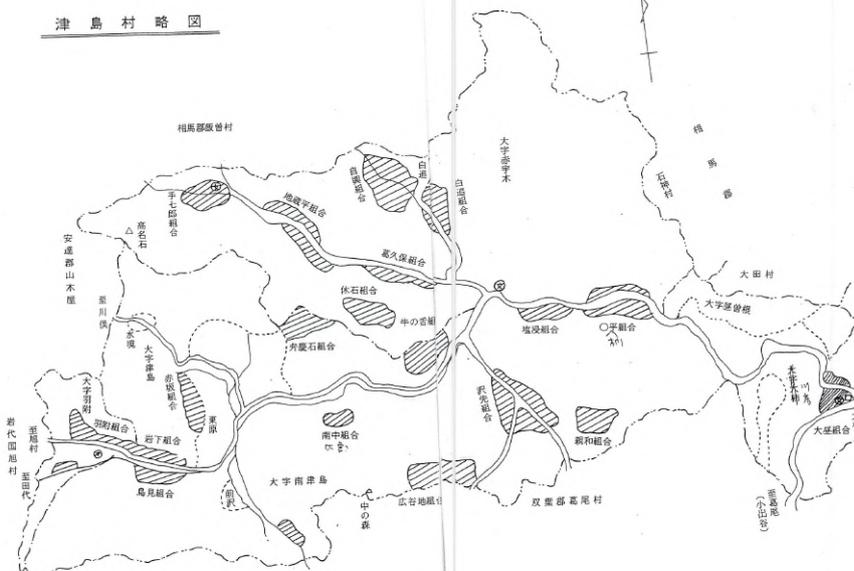
※計測時間帯: 10:00~13:30
 (単位: μSv/h)

測定年月日・天候・測定器種	平成23(2011)年												平成24(2012)年											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10/23	11/27	12/26	1月	2月	3/26	4/30	5/28	6/24	7/29	9/3	9/23	10/30	11/28	12/14		
引込 入り口 池端								28.70	26.40	30.00				30.00	30.00	27.40	30.00	29.70	29.50	28.20	21.40	19.80	22.70	
見 入り口								30.00	30.00	30.00				30.00	30.00	29.60	22.20	25.30	19.30	20.28	20.20	17.20	17.20	
一 入り口								30.00	30.00	29.50				27.70	28.00	26.20	25.60	24.00	24.00	23.90	21.20	19.90	19.30	
幸 入り口								28.70	26.40	26.50				29.30	25.80	25.90	24.80	23.80	23.30	22.80	20.80	19.90	17.50	
ツ日 入り口								28.20	28.70	30.00				26.70	24.90	25.20	23.40	21.20	20.70	21.70	19.50	18.90	15.90	
鉄夫 入り口								27.10	28.50	27.50				29.10	30.00	26.00	22.70	28.80	27.10	27.80	24.50	26.70	21.70	
雄 入り口								27.10	28.50	27.70				27.40	28.10	23.90	22.50	21.40	20.50	22.80	19.80	19.40	18.70	
垂 入り口								27.90	28.50	27.60				30.00	26.00	25.00	28.30	21.70	21.40	21.90	21.80	21.90	20.10	
大 入り口 橋平								30.00	30.00	30.00				24.10	22.80	23.80	24.40	22.50	19.40	21.90	20.50	19.40	18.80	
雄 入り口								30.00	30.00	30.00				30.00	28.30	27.20	24.50	22.50	22.70	22.90	21.20	20.10	19.80	
彦 入り口								30.00	30.00	30.00				30.00	30.00	29.60	29.40	29.10	28.70	27.80	27.50	27.90	28.20	
子 入り口								30.00	30.00	30.00				28.40	29.10	28.30	25.20	26.90	24.90	26.90	22.80	25.10	24.40	
明 入り口								30.00	30.00	30.00				30.00	30.00	29.30	30.00	28.10	26.70	27.10	27.20	26.40	24.50	
音 入り口								30.00	30.00	30.00				30.00	28.50	28.10	27.70	26.30	23.70	24.40	23.80	22.10	20.20	
地表)																								
橋 入り口								21.30	20.60	19.10				19.40	18.30	17.40	14.50	13.30	13.80	12.70	12.30	12.40	11.10	
夫 入り口								18.90	16.70	17.50				16.90	16.30	15.70	14.60	13.70	12.90	14.10	12.80	12.90	11.60	
幸 入り口								21.30	22.60	19.30				15.70	15.80	18.30	14.30	13.10	14.30	14.20	13.50	14.20	14.50	
治 入り口								21.30	21.30	18.90				14.90	14.00	14.40	19.80	12.10	11.70	12.90	12.00	11.30	12.40	

53

注目記事⑨ — 津島開拓40年乃歩み〈完全復刻版〉(資料2)

津島村略図



1984(昭和59)年5月発行
 記念碑建立委員会

入植戸数: 380戸
 新設小学校: 3校
 (赤宇木・手七郎・羽附)

54

『百年後の子孫（こども）たちへ』のこだわり

- 1) 住民による完全手作り
プロが入っていない（放射能汚染調査報告を除く）：余分なバイアスの排除
- 2) 登場人物は全員実名
公文書が得意とする「黒塗り」無し
- 3) 各家の写真は最低でも4枚
住民が見ていた四季を再現
- 4) 膨大な量の聞き書き
避難先を訪ねて生の声を聞き取り
- 5) 怒りの言葉が無い
言葉では表現しきれない怒り→全888頁全体で表現

Photo by テレビュー福島

55

『百年後の子孫（こども）たちへ』の役割

- 1) 故郷の再生マニュアル
- 2) 奪われたものの一覧表
三つの間：空間・時間・人間(じんかん)
- 3) 破綻した国策への回答
- 4) 故郷に捧げる経典

Photo by テレビュー福島

56

福島第一原発事故＝史上最大最悪の公害

公害の被害者は三度殺される

一度目は、**加害企業に殺され**（人生・あるいは命を奪われ）
二度目は、**法や行政に殺され**（司法や政治に救済を求めて裏切られ）
三度目は、**世論**（無関心な世間）**に殺される**

いま、福島を見殺しにしようとしているのは誰もいない、
あなたであり、私である。

石井 亨 『もう「ゴミの島」と言わせない 豊島産廃不法投棄、終わりになき闘い』
Photo by 豊島のこころ資料館

57

赤宇木三部作 その1 (2017年)

**集団服毒自決
生還への手記**

福島県下学田開拓団の奇跡

岸 幸日 著

目 次

〔プロローグ〕「開拓移民」あの記憶を風化させてはならない
〔第1幕〕福島県安達郡上川崎村
〔第2幕〕一家あげて九人が満州へ
〔第3幕〕広大な大地につち音高く
〔第4幕〕ソ連軍の侵攻で天地が逆転
〔第5幕〕チチハルで最後の生活
〔第6幕〕祖国へ向けて出発
〔第7幕〕祖国の土を踏み
〔第8幕〕津島村の開拓地に入植
〔第9幕〕昭栄製糸工場時代
〔第10幕〕近江絹糸工場時代
〔第11幕〕結婚・家族のこと
〔第12幕〕再訪の旅
〔エピローグ〕先人の轍、次代の若者に踏ませてはなりません

龍江省訥河県下学田開拓団経歴
事変勃発前、団入植後の略歴
（お礼の言葉）

津島地区への入植者数：379戸（昭和20(1945)～38(1963)年）

津島地区の戸数・人口推移

昭和13(1938)年	375戸	2,407人
昭和31(1956)年	773戸(+398戸・206%)	4,218人(+1,811人・175%)

58

赤宇木三部作 その3 (2024年)



馬場靖子 写真集
『あの日あの日 古里のアルバム
私たちの浪江町・津島』

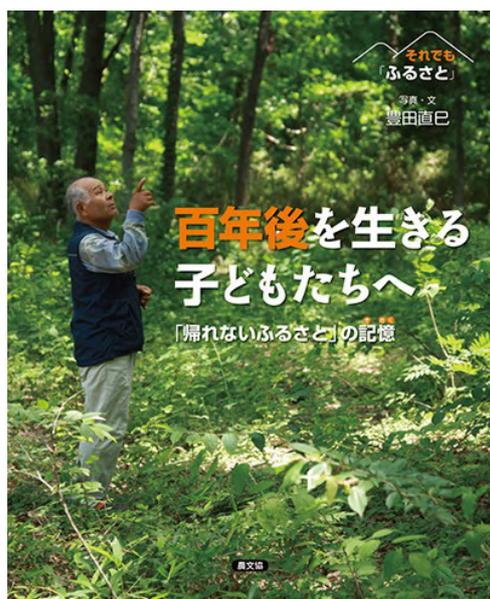
古里に心を寄せて。福島県浪江町津島の変わりゆく姿を捉えた記録

本書は、福島県浪江町津島の元住民である著者・馬場靖子氏が、原発事故前から撮影を続けてきた古里の移り変わる姿を鮮明に記録した写真集です。

この作品は、事故前の穏やかな日々を写した写真と、原発事故後の荒廃した津島の風景が織り交ぜられています。祭りや家族との団らん、人々の日常生活を切り取った写真からは、かつての津島が持つ豊かな文化や温かなコミュニティの姿が生き生きと伝わってきます。一方、荒れ果てた田畑や家々の姿を捉えた事故後の写真には、古里の辛い現実が克明に映し出されています。【東京印書館HP】

59

津島関連本 その1



豊田直巳 写真集
百年後を生きる子どもたちへ
「帰れないふるさと」の記憶

東日本大震災による原発事故で、突然、放射能にふるさと(郷土)を追われた人びとの苦悩や取組み—避難・転居、郷土調査…、いつか帰ってくるかもしれない子どもたちに向けた願いや取組み—郷土の再発見・記録集づくりなどをつぶさに伝え、静かに問いかける写真絵本。第66回産経児童出版文化賞大賞『それでも「ふるさと」全3巻』続編。

60

津島関連本 その2

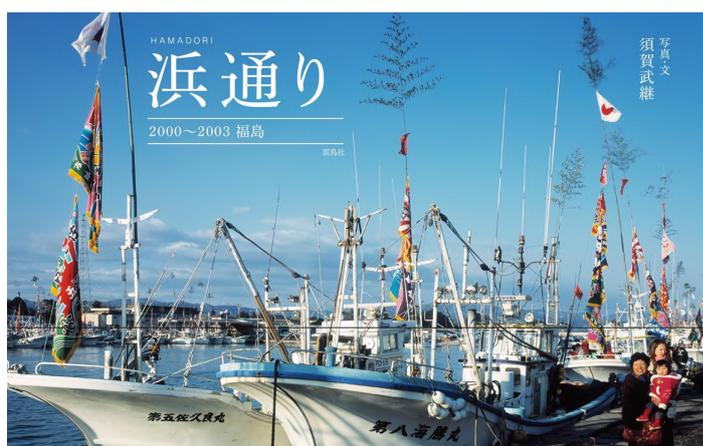


豊田直巳 写真集
 原発災害は今も それでも「ふるさと」
 帰れない山里 消えゆくわが家

豊かな山の幸や人の絆に生かされた山里一浪江町津島。原発から遠く離れていながら、原発災害が大きく「帰れない山里」に。その中でわが家を解体した人々の無念の思い、山里の風景や文化を記録する取り組みを伝える。

61

2011.3.11以前にも 福島は存在しました — 3.11後の福島のみが注目される切なさ —



3.11 以前、ただそこにあたりまえにあった日常の記録。

須賀武継 写真集
 『浜通り 2000～2003 福島』

東日本大震災から10年。今は失われた福島県・浜通りの景色が生き生きと蘇る。

福島県を中心に活動する写真家・須賀武継氏が中・大判のフィルムカメラで撮影した2000～2003年の浜通り地方の穏やかな風景。どの故郷にもあるようなごく普通の日常です。しかしそこは、2011年以後、5～10メートル級の堤防が立ち並び風景が一変してしまった海辺など、今となっては見られなくなってしまった光景が多々ある地域。本書には、震災以前の景色が鮮明に記録された、奇跡とも呼べる貴重な写真が収められています。「フクシマ」でも「Fukushima」でもない、福島県・浜通り地方の豊かな魅力を楽しんでいただける写真集です。【雷鳥社HP】

62

ご清聴 ありがとうございます。

私たちは
どこから来て
どこへ行くのだろうか

『百年後の子孫たちへ』中表紙より

忘れないでください
原子力緊急事態宣言は発令中!!